

地域の高校生と植物組織培養の授業

6月20日(土)、兵庫県立津名高等学校2年の生物選択者を対象として「植物組織培養技術を利用した園芸植物の増殖」の講義と実験を淡路緑景観キャンパスにて行いました。講義では植物組織培養の概説、農業への応用例などを解説しました。実験ではコリウスの葉片培養やカーネーションの茎頂培養などを行いました。実体顕微鏡をのぞきながら約0.2mmサイズの茎頂を切り出す作業に、生徒の皆さんは四苦八苦されていました。今回培地に植え付けた植物は本校で培養し、後日皆さんにお返しする予定です。

【あわじ環境未来島構想系】



養父市大屋町明延における重点的取組課題に関する協議

6月21日(日)、鉾石の道実行委員会、NPO法人一円電車あけのべ事務局、ひょうごふるさとづくり青年隊、養父市の方々と、今年度の養父市大屋町明延におけるCOC事業の重点的取組課題に関する協議を行いました。本学COC多自然地域再生系プロジェクトでは、養父市大屋町明延において、鉾山などの地域の資源を活かしたまちづくり支援を行い、これまで鉾山社宅の修繕・活用の支援や、明延の景観に関する意見交換を重ねてきました。今年度の活動案として、明延の名物料理の開発や、区内に点在する空き家の活用方策などが話し合われました。意見交換の後、明延区内の視察として、区内に点在する空き家や昨年度修繕が完了した鉾山社宅、区内を流れる明延川の清流(区内の上流部にあり、昔から子供の遊び場だった場所)などを実際に見て回り、観光やまちづくりにあまり活用が図られていない地域資源などについて理解を深めました。

【多自然地域再生系】

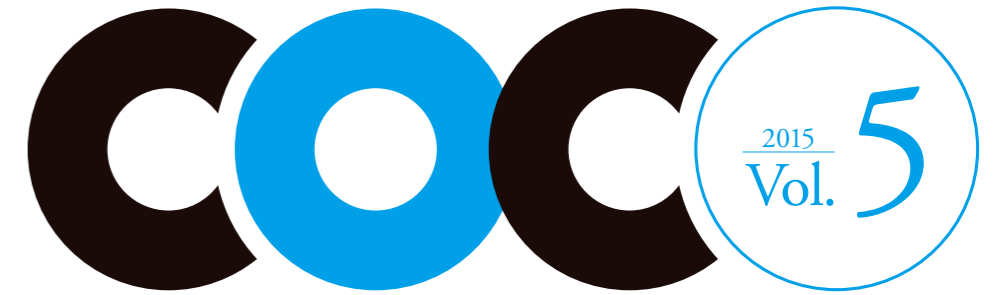


明石市高齢者大学におけるCOC事業成果発表

6月24日(水)、明石市衣川コミュニティーセンター主催の高齢者大学にて、森永教授がCOC事業「地域防災・減災系プロジェクト」の成果を交えた講演を行いました。講演題目は「防災・減災のための【自助】と【共助】の大切さ」で、事業を展開している南

あわじ市阿万地区や神戸市舞子地区で得られた防災・減災のための知見を紹介しながら、高齢者向けの防災・減災対策を話しました。熱心に聞いて頂き、参加した約80名の高齢者の方々に【自助】や【共助】の大切さをお伝えすることができました。

【地域防災・減災系】



ひょうご・地(知)の五国豊穰イニシアティブニュース

CONTENTS

- 第29回ひめじぐるめらんど出展
- 新入生を対象とした地域志向科目「COC概論」の開講
- 企画展「アンモナイトのふしぎ」
- 舞子まち歩き
- 尼崎ShD研修
- おおやアート村BIG LABO「BIG LABO!! アートこん虫展」
- 養父地域COC戦略会議
- 地域の高校生と植物組織培養の授業
- 養父市大屋町明延における重点的取組課題に関する協議
- 明石市高齢者大学におけるCOC事業成果発表

「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)とは

大学等が自治体と連携し、地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める取り組みです。大学等が課題解決に取り組む人材や情報・技術が集まる地域コミュニティの中核的存在となり、教育研究により地域課題を直視し、学生の実践力を育成し、課題解決と地域の再生・活性化に貢献するものです。平成25年度より文部科学省が全国の大学等を対象に支援を開始しています。本学も平成25年8月に採択されています。

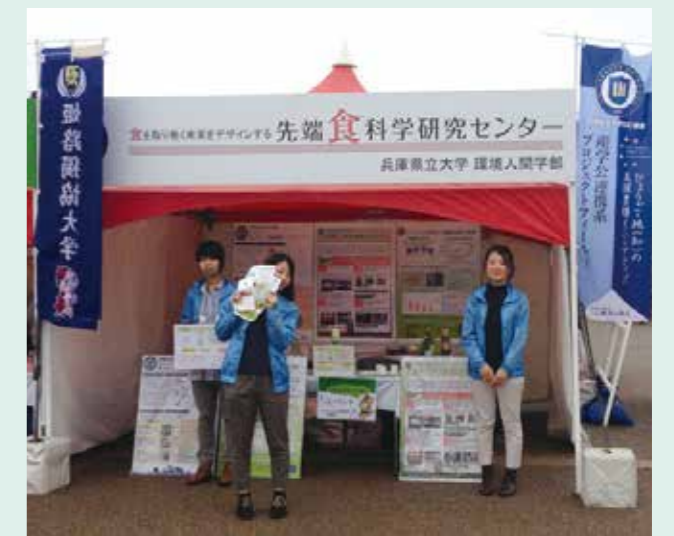


第29回ひめじぐるめらんど出展

4月3日(金)～5日(日)の3日間、第29回ひめじぐるめらんどに出展しました。「食をテーマとした研究発表コーナー」において、先端食科学研究センターおよびCOC事業の地域における研究活動紹介を行い、県立大学ブランド品として創出した棚田米酒、クッキー、およびユーグレナの機能性について紹介しました。また、県立大学のブースでは、センターの取り組み、COC事業の紹介

と飲むユーグレナの試食を3日間行い、飲むユーグレナを250本以上試飲いただくなど、多くの方に興味を持って頂きました。教員、学生参加により発表および紹介を行うことで、食をテーマとして地域の課題解決に取り組むことをアピールすることができ、また、教育研究の活性化・学生の実践力育成につなげていくことができました。

【産学公連携系】



2015年6月30日号

兵庫県立大学 地域創造機構 地域連携教育研究センター

神戸市西区学園西町8丁目2-1

TEL. 078-794-6653 FAX. 078-794-5575

E-mail chiikikouken@ofc.u-hyogo.ac.jp <http://u-hyogo-coc.net/>



新入生を対象とした地域志向科目「COC概論」の開講

4月15日(水)兵庫県立大学が進める地域を志向した体系的な学修の入り口となる「COC概論」を開講しました。初年度は、経済・経営・看護の三学部1年生199名が受講しています。「COC概論」では、地震・津波等に対する防災や、少子高齢化、産業空洞化など、現代日本の様々な課題を縮図的に抱える兵庫県での事例を通じ、大学において地域社会や多分野と交流しながら研究を進める意義と重要性を学ぶことを目的としています。2限連続の講義は、兵庫県の歴史的文化的背景と社会的課題を踏まえ、

COC事業の各プロジェクトに取り組む教員による講義(1限)や地域で実際活動するステイクホルダーの方々による生の声(2限)を聞き、質問や議論を通じて、学生が多様な地域課題を理解し、これから自分が学ぶ分野への接続を図ることができる構成になっています。初回の講義冒頭に清原学長から大学で地域課題を学ぶ意義について講話があった後、COC事業を担当する特任助教から、兵庫県の特徴と現在の課題、その背景となる歴史的経緯を講義しました。休憩を挟んで2限目では、引き続き特任助教から、COC事業の6つのプロジェクトフィールドの抱える課題と、現在の取り組みについての紹介を行いました。

【地域連携教育研究センター】



企画展「アンモナイトのふしぎ」

5月2日(土)～6月28日(日)丹波市山南町の丹波竜化石工房「ちーたんの館」において、企画展「アンモナイトのふしぎ」を開催しました。4月25日(土)、26日(日)には、企画展に先立ち、人と自然の博物館において展示製作会を実施しました。当日は、教員、博物館研究員とともに本学からの参加学生が展示物・パネル類のチェックや標本ラベルの製作等、企画展の準備を進めました。5月3日(日)には、ワークショップ「アンモナイト採集会」を開催し、事前申し込みを行った一般参加者(こどもと保護者)が、北海道産のノジュールを用いたアンモナイト化石採集を行いました。本ワークショップでは、企画・運営を通じて、地域の自然が有するメッセージを参加者へわかりやすく解説するためのインタープリテーションを学び、多世代との交流、対話力や地域課題への挑戦力を身につける教育プログラムも兼ねているため、本学学生もスタッフに混じって採集会をサポートしました。参加者は皆、岩石を割って化石を取り出すのに夢中で、あっという間の2時間でした。

【地域資源マネジメント系】



舞子まち歩き

5月24日(日)舞子子育てコミュニティー主催、兵庫県立大学COC事業、舞子戦略会議共催で「舞子まち歩き」を開催しました。まちの安全・安心、防災、歴史などの情報をスマートフォンを使って知り、そして加えるという作業を親子約30組(約80名)に学んでいただきながらまち歩きをしました。また、災害時の給水機能となる自動販売機の場所を参加者に登録してもらう作業を行い、小さな子どもと移動するスピードなどを理解してもらいながら、災害時の避難シミュレーションについても考えていただきました。

【地域防災・減災系】



尼崎ShD研修

昨年度から引き続き、平成27年度も尼崎地域においてShD研修を実施します。本年度は、より多くの地域住民の方々にご参加いただけるよう、取り組みを行っております。5月26日(火)尼崎市市政情報センターにおいて、平成27年度第1回目のShD研修を開催しました。テーマは、「全国のソーシャルビジネス先進事例から学ぶ～尼崎に求められるソーシャルビジネスとは～ 自治を回復し、まち・むらの課題を、まち・むらの力で解決するために」と題しまして、IIHOE(人と組織と地球のための国際研究所)代表者の川北秀人氏にご講演いただきました。講演の中では、尼崎市が直面している課題をデータを用いてわかりやすく指摘し、その上で事例を紹介しながら、コミュニティビジネス、あるいは社会起業

家というプレイヤーが、行政と市民との協働をつなぐ役割を担う可能性を示しました。また、行政は、より積極的に市民との協働を進める必要があることを、講演の中で強く指摘されました。

【ソーシャルビジネス系】



おおやアート村BIG LABO「BIG LABO!! アートこん虫展」

5月30日(土)、31日(日)の2日間にわたり、養父市大屋町おおやアート村BIG LABOにて開催されている「BIG LABO!! アートこん虫展」(会期:～9月1日(火))での展示協力を行いました。養父市ではこれまで木彫、木工などの多彩な芸術家が活動し、養蚕農家の空き家を利用した展示館やギャラリーが集積していました。養父市では大屋の地域資源と芸術資源を新しいまちづくりに結びつける「大屋アート村構想」を進めており、その拠点施設として2012年におおやアート村BIG LABOが開設されました。現在は、廃校になった旧兵庫県立八鹿高校大屋分校を利用して、作家の育成や地域の芸術文化振興を通じたまちづくりの活動を行っています。今回BIG LABOで開催される「アートこん虫展」での作品と実物の昆虫とのコラボレーション展示は、地域の昆虫をはじめとした自然と作品の結びつきを体感してもらうことを意図して企画しました。まず初日の30日は、自然・環境科学研究所(人と自然の博物館)と活動をともにする昆虫研究活動団体「テネラル」の大学生を中心に、31日の展示で使う生きた昆虫を採集するため、大屋地域周辺での昆虫採集を実施しました。夜は大屋町大杉の養蚕農家を改築した宿泊施設「いろり」に宿泊し、学生は一晚中ライトトラップによる昆虫採集に没頭していました。31日は、

おおやアート村BIG LABOにて、蚊帳の中で昨日採集した昆虫と触れ合える展示のほか、移動博物館車「ゆめはく」(博物館の所有する2トントラック移動展示車(側面が開いて中に展示を行える仕組みになっている)による昆虫の標本展示プログラムを実施しました。実際にどのくらいの方々が見学に来られるか心配していましたが、小さな子ども連れの方々を中心に約100名に来館いただき大盛況となりました。中には初めておおやアート村に訪れた養父市の若い方もいて、今後アートを通じたまちづくりを推進する上で、取り組みを知ってもらいたい機会になりました。

【多自然地域再生系】



養父地域COC戦略会議

6月8日(月)、養父市役所養父地域局にて、本学の教員と養父市役所、養父市教育委員会、NPO法人一円電車あけのべ理事長 藤尾賢介氏が参加し、今年度のCOC戦略会議を開きました。多自然地域再生系プロジェクトフィールドでは、連携自治体である養父市八鹿地区に加えて、明延地区における活動を行ってきました。明延地区には「日本一のスズ鉱山」として栄えた旧明延鉱山があります。昭和62年の閉山以降、人口減少と高齢化が急激に進み、今ではいわゆる限界集落となりました。しかし、明延には、近代化産業遺産に登録された明延鉱山探検坑道、一円電車、第一浴場をはじめとした全国的にも貴重な鉱山遺構、社宅群など鉱山町独特の景観や文化が残っていることから、まち全体を「まるごと博物館」と位置づけ、地域の活性化をめざしています。この「まるごと博物館構想」を実現していくためには、地域住民はもちろんのこと、地域外からも様々な主体を巻き込みながらまちづくりを展開していく必要があります。昨年度まで鉱山住宅にお

ける古写真展示、明延まちづくり交流会などを通じてその活用方策に関する意識共有を図ってきました。これらの活動を踏まえて今回の会議では、同市内他地域におけるNPO団体との連携のあり方や、区域外から明延に関わる人の輪を増やすためのしかけ作り、地域への負荷が増えない形で持続可能な観光開発を行うための具体策などについて話し合われました。

【多自然地域再生系】

